

## 第53回 緑の市民懇話会 会議要旨

1 日 時 令和5年7月25日(火) 14時30分～16時00分

2 場 所 生駒市役所 302会議室

3 出席者

(参加者) 久隆浩座長、下村泰彦、新居延之、井上良作、澤村章男、高橋美由紀、  
長尾夏江、日高容子、山田勲、米田友二、高比良紀、真下藍

(事務局) みどり公園課 巽課長、紀之國課長補佐、緑化景観係 明石係長、南  
花のまちづくりセンター 高橋所長

4 傍聴者 なし

5 議題・要旨

### 1 開 会

### 2 案 件

#### (1) 令和4年度事業実績と令和5年度事業概要

資料をもとに事業概要を説明し、意見交換を行った。

・PARK REMAKE QUESTは30人くらいの参加があり、非常に活発な議論が行われ、実際に動き出しているケースもある。公園では、許可申請を行うことなくできることはたくさんあるのでそのような発信もしていければ良い。

・コミュニティ系の活動は全国的にも誇れるレベルだと思うが、かつては実施していた生垣助成制度、コミュニティパーク事業など整備系がほとんどなくなった。緑環境を保全する手法として今後されていく予定はないのか。今般、都市緑地法が改正されて、認定緑地制度もできた。生駒市のような郊外都市に必要なかは検討が必要だが、先行して実施してきた市民の森事業も指定場所が増えているわけではない。また、昨年度と今年度の事業報告をされるのはよいが、評価も必要。その上で、もっと頑張りたいのか、これで十分と思っているのか、特に意見をもらいたい点についても説明があると、今後どこに力を入れていくかの話ができるかと思う。

→整備に関しては、昨年度、倒木などの事故が発生して、その対応を行っている。安全な緑を残すという方向のシステムをつくっていけたらと思う。事業の評価については今後、緑の基本計画改定の中で盛り込んでいかなければならないと思っている。個々の事業について、コミュニティパーク事業はみんなの公園ワークショップに移行したが、地域から声が出るのを市側が待つタイプの事業だったので、市から積極的に声をかける事業として PARK REMAKE

QUEST に取り組んでいる。市民の森事業は、色々と工夫しており、令和 3 年度はのべ 87 名であった参加者が令和 4 年度はのべ 184 名まで増加した。民有地活用も緑の基本計画の中で位置付けていきたい。

- ・緑の基本計画を改定する際に現況を分析されると思うが、市街地では、生駒駅北側はベルテラスいこまなどに植栽も整備しているが、南側をどうするかについては今動きが出始めている。緑のオープンスペースがほとんどなくてもっと欲しいスポットはあるかと思う。緑の基本計画の中でよく検討し、予算をつけられることはつけたらいいと思う。
- ・都市公園・自然区域の保全といった分野ごと、あるいは高齢者活躍・子どもの環境教育といった対象者ごとなど、事業を分類したら、どれくらいのことができていて、何が抜けているのか、というように整理して、抜けてそうなところ、力が入っているところを評価して予算要求をしていく仕掛けがあるといい。まずは緑の基本計画のどこに位置付けているかで整理できるといいと思う。
- ・山麓公園については資料にないが、平成 26 年 7 月から 10 年間で、来年夏に指定管理期間が終わるため、今は次の選定準備をしているところである。
- ・基金の寄附額がちょっと少ない。支出が大きいためひっ迫しているのは市も自覚している。ことあるごとに PR していくといいと思う。例えば、茨木市ではガンバ大阪がスタジアムを寄附で 130 億円を集めた。最後の方は、あと 20 億円足りません、このままだと屋根のないスタジアムになります、といった必死の PR を行っていた。寄付したら還付があるというところを PR したのもうまいと思う。
- ・里山づくり推進事業はボランティア団体の支援を行っている。金額は 230 万円で、財源は国の森林環境譲与税が 100% となっている。内容は消耗品や活動費で、予算時期に各団体に声をかけて次年度の活動内容をお聞きして決めている。
- ・学校への花苗供給は、ふろーらむで残っている花苗を持って行くなどはしている。差し上げたところは花と緑の景観まちづくりコンテストにも出して欲しいといったお声がけをするなど、将来的に生駒市に定住あるいは U ターンしてもらえるような愛着の醸成を花と緑ではかっていければと思う。花苗を学校の校庭で作ってその花をまちに植えるような連携もあるかと思う。市内では昔、校長先生が個人で育てた苗を配るようなことをしていた。ふろーらむでも、今、こどもたちを集めて花苗を集めて育てるといったアイデアがでている。
- ・改めて子どもに目を向けてやっていくといいかと思う。今都市公園は全国的に賑わい、民間活力、金儲けに寄りすぎているきらいがある。もう一度、公園の良さ、自然環境的な教育を改めてできるといいと思う。
- ・子どもが小学校 3 年生で、外部の方のお話を聞く機会が増えている。小学校で、校門のまわりにお花を植える美化委員活動がある。授業でも醤油の作り方を取り上げるなど色々と工夫されている。今、野菜と花と一緒に植えることも多く、おでかけふろーらむを活用しながら、子どもと一緒に植える機会を作るにあたっては小学校も一緒にできるといいと思う。そのような取組は地域と学校がつながっていくきっかけになると思う。

- ・学校の先生に向けたふろーらむの講座もあっていい。ガーデニング講座にはきてくれる人もいる。若い先生は学ぶことも多くて大変だから、ある程度簡単に学べるしくみが必要かと思う。昔、校長試験に花植えが項目であったこともある。小さなきっかけ、しかけを作っていくことが大切かと思う。1か月以内に育つなら自由研究にできるが、多くの植物はそんなすぐには育たない。合わせ技で考えるのもいいかと思う。東大阪市の事例では、生徒・児童が植物を育てたら校内の器物損壊が減ったという報告もある。
- ・生駒市の苗圃施設はふろーらむ内のビニールハウスにあるということだが、樹木を扱ってもよい。市民の森の一角で育成しても良いかもしれない。何か時系列で生育を見ていくような仕掛けができれば、樹種によって成長速度も違うので、どんな森づくりをするかといった中期的プログラムを仕掛けておくとういことかと思う。小学校は6年間在籍するので、6年間あれば樹木であってもけっこう育つと思う。
- ・大阪府はなにわの伝統野菜として田辺大根を育てて小学校で収穫祭を行ったり、吹田では校内にくわいの田んぼを設けたりしている。みんなで頑張っているという作物があれば、いろんなところに植えてくれるかもしれない。
- ・耕作放棄地でコスモスやひまわりを植えたりはしている。コスモスをハート型に植えるだけでみんな写真を撮る世の中になっている。富田林の山際で、地域を盛り上げるためにお金を出し合いながら風景のカレンダーをつくっている。持ち寄りの光景があると面白い。花のまちづくりセンターとみどり公園課のインスタグラムを始めた。
- ・花と緑の景観まちづくりコンテストで部門を変えた。今回の表彰式では、団体に色々声をかけて、昨年度より早い時期に開催できたこともあって盛況だった。受賞した中学生が参加していたことも良かった。元の部門に戻せという声も特に上がっていない。変えて良かったかどうかの評価はあるといいかと思う。

## (2) その他

- ・いこま棚田クラブ「生駒の棚田・里山で遊ぼう」は、申込開始 30 分で定員に達し、家族連れ 70 人くらいになる予定。
- ・いこま里山クラブ「自然観察とネイチャークラフト」を毎年山の日に行っている。生駒山麓公園で班にわかれて自然観察を行う。人気が出てきて抽選制で、例年かなりの申込が来る。クラフトは竹を切ってきて水鉄砲の作り方を教えていく。こどもたちはだんだん乗ってきて作るころには楽しく遊ぶようになっている。
- ・「南チロル堂」が9月にオープンする。福祉事業所が「手づくりの公共」をテーマにしている取組で、こども食堂の側面がある。大人の寄附でこどもが等しくごはんを食べられる、みんなが来られる場所にする。自治会がしっかりあって、学校の横という特性を活かし、地域の人で運営していく場にしたい。福祉に関心のない人も来られるように誰がやっているかわからない場所に行っている。本日の話を聞いて、花壇などがあるといいなと思った。

- ・物でチロる（寄付する）ことはできるのか？→南は今のところやる人も地域から募集している段階なのでまだ受け入れ態勢ができていないかもしれない。
- ・民間敷地で公的利用は理想的。一方で、運営側の苦勞もあると思う。万一のケガや熱中症に対してクレームを出す人もいるかもしれないので、自己責任ということを明記するなどが必要かもしれない。
- ・大きなカレンダーに何月何日にこれることを書き込み、行けない時は書き込んだ人が代わりを見つけてくることで運営の負担を抑えるやり方もある。スタッフ申し込みの年齢層は、シニアから高校生まで多岐に渡る。ボランティアに来てくれる人に、少しの時間でもいいので、意味とお願い事を伝える時間があるといいかと思う。
  
- ・ふろーらむのガーデニング講座、おはなしカフェの内容を説明した。
  
- ・緑の基本計画について、現在は基礎データの調査中である旨を事務局から説明した。

### 3 閉 会